

《眼科臨床エキスパート》 黄斑疾患診療 A to Z

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信, 天野史郎 シリーズ編集
岸 章治, 吉村長久 編

わが国の黄斑疾患学の二大碩学, 岸 章治教授, 吉村長久教授の手による『黄斑疾患診療 A to Z』が上梓された。本書は眼科臨床エキスパートシリーズの1冊として編集されたものである。

近年, 黄斑疾患学はすさまじい勢いで進歩を遂げ, また診療に携わる眼科医の数も広がりを見せている。評者が黄斑疾患の診療に携わるようになったのは1980年代後半であったが, 当時, 加齢黄斑変性の治療はレーザー光凝固しかなく, 中心窩下新生血管を中心窩ごと凝固していた。その頃, 黄斑外来は, 視力がほとんど改善しない患者ばかりを診療していたため, 密かに「ため息外来」と呼ばれていたものである。当時, 日大の松井瑞夫・湯澤美都子両先生による『図説 黄斑部疾患』がすでに出版されていたが, 黄斑疾患の専門書はまだ少なく, 加齢黄斑変性はわが国ではマイナーな疾患であった。その後, わが国でも加齢黄斑変性が増加し, 疾患に注目が集まるに従って黄斑疾患に興味を持つ眼科医が増加し始めた。さらに OCT, 抗 VEGF 療法をはじめとする診断・治療の急速な進歩も相まって, 若い有望な眼科医たちもこぞって黄斑疾患の診療に携わるようになり, 加齢黄斑変性は学会でも「華」の疾患の一つとなった。本書はこのような黄斑疾患学の進歩をひしひしと実感させてくれる新しいスタンダードテキストといえる。

編者の岸教授は言うまでもなく, 世界に名だたる硝子体「岸ポケット」の提唱者であり, 他にも黄斑円孔の形成過程, 光干渉断層計 (OCT) による黄斑疾患の解明で世界中に名を馳せておられる。一方, 吉村教授は前任の信州大に教授として赴任されたところから黄斑

疾患の重要性に着目され, 京大に帰還された後は, わが国で唯一無比の黄斑疾患治療センターを見事に立ち上げられ, 新しい OCT や AO-SLO の開発, 黄斑疾患のゲノム解析など, 莫大な数の新知見を次々と世に送り出してこられた。本書は, この二大碩学が, 進歩の速い黄斑疾患学の最新の知識を整理するために力を込めて編集され, 優秀な弟子たちとともに全編を執筆されたものである。本書を通読するとわかるが, 全編にただの教科書にはない, ある種のフィロソフィーが貫かれており, 非常に読みごたえのある一冊となっている。本書の特徴として, ①黄斑疾患の疾患概念と病態, 診断, 治療について最新の知見と診療スタイルが網羅されており, 読者にわかりやすい記述が徹底されている, ②SS-OCT, 超広角レーザー検眼鏡, 眼底自発蛍光など, 最新の診断機器による画像によって症例ベースでの解説がふんだんに提示されており, 疾患の深い理解と実臨床での診断に大いに助けとなる, ③筆者がすべて群馬大, 京大の先生方で統一されているため, 両編者の目が届く状態で, 統一がとれた形式で一步踏み込んだ執筆がなされている, ことが挙げられる。

網膜や黄斑の専門家はもちろん, これから黄斑疾患の勉強を始める若い学徒や一般眼科医にとっても, 明日からの黄斑疾患の診療に直結する座右の書として, 広く薦めたい名著である。

関西医科大学主任教授／眼科 高橋寛二

B5・頁 444 2014 年

定価：本体 17,000 円＋税

[ISBN978-4-260-01940-8] 医学書院